

## 理工学部の新発展に思う

会長 田村 弘三郎

錦秋の候、会員の皆様には、益々ご健勝で活躍の事とお慶び申し上げます。

併せ、日頃は応化会に格別のご理解を賜り、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。ここに厚く御礼を申し上げます。

私こと、さる6月21日立命館大学応化会第6回定時総会におきまして皆様のご推挙を頂き引き続き応化会会長に就任することになりました。浅学非才の身ではございますが、皆様のご期待にお応えし応化会の発展のために微力ではご

ざいですが努力をいたして参りたいと存じますので、今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。

恒例によりまして、会長就任のご挨拶を申し上げます。

皆様にはご高承の通り立命館大学理工学部には、学園の拡充と社会の要請に込め「びわこ・くさつキャンパス」に学舎を移して早いもので4年の年月が過ぎました。この間、新しく誕生した生物工学科に代表されるように新分野の教育・研究はもとより、他の大学に先がけ、社会に開かれた理

工学部は企業と連携し研究成果を生かすために総合理工学研究機構を組織化し企業の研究開発を支援するための研究支援センターを開設、その業績は各方面より高い評価を受けております。

加えて、近年、

月24日（日）に開催されるはこびになりました。会員一人ひとりととりまして楽しい意義深い一日となるよう記念事業が進められておりますので多数の皆様にご参加をして頂きますようお願い申し上げます。

さて、皆様にはご承知の通り今日の日本経済は戦後最大の不況と云われており昨秋金融機関の破綻に始まり金融不安や金融機関の信用低下、またまた貸し渋りなどの影響で景気は停滞し厳しい現状が続いておりますが、常に思うことは技術革新なしに産業の発展や新しい価値感による需要の創造、そして社会の活性化は出来ないと考える一人でございます。

皆様には自由な学園で培った科学技術に更なる磨きをかけ高い志を持ってこの経済不況を克服し、来たるべき少子・高齢化社会にも思いを起し日々のご活躍を心から願っております。

最後になりましたが、立命館大学の益々の発展と会員各位のご健勝を心からお祈り申し上げますと共に応化会の発展にも一層のご協力を賜りますようお願いを申し上げます。簡単ですが会長就任の挨拶といたします。



# 二十一世紀へ向けての

## 教学の取り組み

応用化学系学系長

林 隆 俊

平成十年度の応用化学系学系長として、立命館大学応用化学会員の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。

立命館大学理工学部が昭和十三年立命館高等工科学校設立以来、長年にわたり衣笠の地で理工学部系の多くの人材を送り出して来ました。その間、昭和二十五年（1950年）に大学院設置が認められ、昭和三十年（1955年）に理工学研究科設立、昭和六十二年（1987年）には情報工学科を増設（1994年に情報学科に改組・拡充）するなど、理工学部として、著しい発展を遂げてきました。そして、社会の要請に応え常に自己改革を目指す本学にとって、また、二十一世紀を目指す理工学部にとっては、長年にわたり活動してきた、衣笠の地はもはや手狭になりつつ有りました。これからの本学理工学部にとって、真の国際

化を推進し、本格的な高度情報化社会を切り開いていく人材を育成していかなければなりません。その目的を達成させるためには、もはや新天地を求めざるを得なくなりまして。

平成三年一月（1991年）から、機械工学科出身の大南正瑛先生が立命館総長となられた後、平成六年（1994年）に思い出深い衣笠の地を離れ理工学部のびわこ・くさつキャンパスへの移転が実現しましたことはご承知の通りであります。この大事業の成功は応化会の皆様などの絶大なご支援のたまものであったことは言うまでもありません。一同心から感謝いたしております。

びわこ・くさつキャンパスは琵琶湖を望む丘陵地帯の一角にあつて、みどり豊かな素晴らしい環境と最新の設備を誇る一大教育・研究施設とな

りました。もし、まだびわこ・くさつキャンパスへ一度もお越しになられていない方は是非一度足を運んで下さい。百聞一見に如かずです。我々教職員一同、皆様をお待ちいたしております。

理工学部がびわこ・くさつキャンパスへ移転して、早や四年が経過しました。この間、日本及び世界が大きく動き、地球環境問題、特に温暖化問題や環境ホルモン問題などが放置できない大問題となりました。二十一世紀へ、すばらしい地球を残すために我々は、「何をなすべきか？」を大きく問われているのです。人類は長年にわたり、利便性の追求のみに走り、地球環境問題と言う人間の作った紐で人間の首を締めるはめになっているのです。人類の日常の利便性追求のため、あまりにも巨大化した科学技術のみに頼り、二十一世紀の宇宙船地球号の内部を汚し過ぎたのです。これらの問題を解決するためには、人間は、単なる技術者や政治家だけでは、答えを見いだすことが出来ないところへ到達しているのではないでしょうか？すなわち、二十一世紀の宇宙船地球号を救うことの出来る人材は、哲学・政治・科学技術などの分野の総合的

な知識を持つ者であろうと思われまふ。

そこで、本学では、平成十一年（1998年）四月から、経済・経営両学部がびわこ・くさつキャンパスに移転したことを機に、びわこ・くさつキャンパスにおける三学部共同の取り組みを開始しました。すなわち、「文理融合型の教学とキャンパスの創造」です。本年四月から経済・経営・理工の三学部が立地するびわこ・くさつキャンパスにおいて「BKC文理総合インスティテュート」コースの学生募集を実施しました。このインスティテュートには、「ファイナンス・インスティテュート」、「環境・デザイン・インスティテュート」、「サービスマネジメント・インスティテュート」の三コースが有ります。ここでは、既存の学問体系から発想するのではなく、人材育成という目的のために必要な科目を組み立てるといふ考え方が取られています。経済・経営・理工の三分野を基盤としながら、それらさえも越えるような斬新な科目群を積極的に取り入れています。

化学系では、このうちの「環境・デザイン・インスティテュート」の学生を受け入れていきます。

以上のごとく、理工学部では、応用化学系を含めて、二十一世紀へ向けて他大学には無い新しい取り組みに努力しております。どうか先輩の皆様方におかれましては、本学のかかる取り組みにご理解をいただき、今後ともより一層、後輩へのご支援ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、応化会の皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。



# 光で拓く21世紀

立命館大学副総長

濱川 圭弘



プラスチックの発明に代表される高分子化学、トランジスタの誕生による固体電子工学からマイクロエレクトロニクス、そしてコンピュータの発達、さらには宇宙開発など化学技術の進歩によって20世紀の我々は豊かな物質文明を謳歌してきた。ところがこうした物質文明の急速な進歩を支えてきた根幹には低コストで豊富な化石エネルギーの大量消費と経済的に採算がとれればなにをしても許されるというエコノミー中心主義のパラダイムができあがってしまった。こうした地球資源の浪費は単に石油などの化石燃料のみならず紙の原料として

の森林破壊、冷蔵技術の進歩による海洋資源の乱獲も同じである。

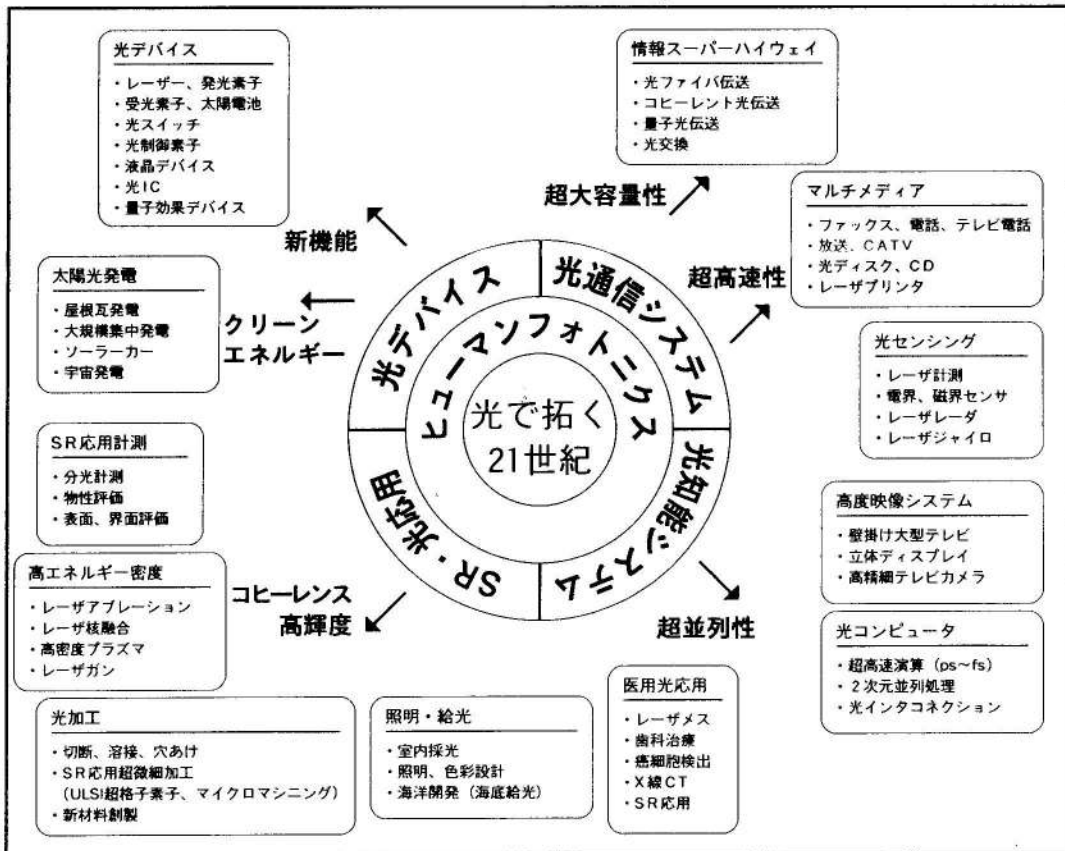
19世紀末、エジソンの白熱電球の発明とマルコニーの無線通信の発明が20世紀には電気・電子工学として発展し20世紀文明を支える代表的な先端技術が築き上げられた。さて、21世紀の先端技術がどうなるのかを考えてみると「光」を媒体とした、新技術が大きな拡がりが見られそうである。先ず文明活動の動力源である、云わば、「文明のお米」ともいえるエネルギーの分野では太陽光発電、レーザ加工、レーザ核融合、光ファイバー照明ならびに各種医療応用などをめぐる研究開発が進みつつある。なかでも太陽光発電は化石燃料の枯渇と地球環境問題を解決できるクリーンエネルギーとして、光が高エネルギー密度に閉じ込められることを利用した、レーザ加工やレーザメスなどの医療分野、さらにはレーザアブレーション

ンによる新素材の創製などに応用されている。夢の光といわれてきたシンクロトロン軌道放射光（SR）の発生は、極微量元素の分析、タンパク質の構造解析、各種材料のキャラクタリゼーション、またSR光が焦点深度が深いことと高精細性の両特質の利用としてマイクロマシンニングなどの微細加工へと応用技術が拡がりつつある。

一方、「文明のおかず」ともいえる情報処理・情報通信、そしてアメニティやセキュリティなど、これらのすべての分野にわたって光を利用したさまざまな新機能デバイスの開発が進みつつある。たとえば、「光」の高速伝搬性を応用した、超高速光コンピュータや二次元画像の並列処理による超高速情報処理とか大容量メモリをめぐる新技術が開発されつつある。さらにレーザ光のコヒーレント性を利用して光波に高密度の情報に乗せて搬送する光通信は大量の情報伝達が可能である。近い将来、光の双方向

伝播性を利用して、画像・映像情報と通信を融合したインタラクティブTVなどのマルチメディアへの光の応用に期待が高まっている。そしてファイバ通信ならびに宇宙通信を用いた情報スーパーハイ

ウェイが組み上げられインターネットを通じて地球規模の通信網ができあがりつつある。21世紀の高度文明の構築には、地中のバクテリアから人類に至るまであらゆる生態系







講演中の濱川先生

の循環サイクルを維持しつつ、よりアメニティに富んだ文明生活を求めるライフスタイルに転向する必要がある。いわば、エコノミー中心主義からエコロジー重点主義へのパラダイムシフトが必要である。この観点から、新しいヒューマンフォトリクスという分野が生まれようとしている。講演では、上記してきた光科学とその新技術分野への展開について、現在進みつつあるライフテクノロジーの実例を挙げて説明し、その将来について検討した。

会員だより

## サウジアラビアから サラマレーコン（こんにちは）

三田 俊一郎  
（昭和51年卒）

私は現在、サウジアラビア王国のカフジという町にあるアラビア石油株式会社アラビア鉱業所に勤務しています。アラビア石油（株）は原油を生産している日本の会社の中では最大で、クウェート国境に近いこの町に基地（アラビア鉱業所）があり、その沖合から原油を生産し世界中に輸出しています。最大の顧客は当然、日本です。アラビア石油（株）の社員のほとんど（技術系は全員）はアラビア鉱業所への赴任、東京本社への帰任を繰り返します。私のサウジでの赴任期間の合計は10年近くにもなっており、サウジが第二の故郷になってしまっているのではないかと考えることもあります（あまり考えたくないことです）

さてサウジアラビアのことをよく知っている人は少ないと思いますが、中東という言葉はニュース等で使われよくご存じだと思います。中東という言葉の他、アラブとかイスラムという言葉も時々、中東と同じような意味で使用さ

れますが、これらの言葉には、はっきりした定義がありません。通常日本で中東という場合、東はアフガニスタン、西はモロッコ、北はトルコ、南はスーダンあたり、という広い範囲を指しているようです。また、アラブとは民族を指すのではなく、アラビア語を母国語とし、宗教としてイスラムを信じる人々といったかなり漠然とした概念です。さらに、イスラム（宗教）は必ずしもアラブの概念を規定する条件にはなりません。いずれにしろ、中東、アラブ、イスラムという言葉には定義がないものの、同義語として扱うのは無理があるようです。サウジアラビアでは仕事や生活を始めた頃、それまで海外での仕事の経験があったにもかかわらず、自然や風土、文化、考え方や、複雑な政治的な紛争、社会の構造が自分の想像しているものと非常に異なっていたことにびっくりしたことを覚えています。少しそれらについて紹介しましょう。

が、休日、日本人はこの炎天下、ゴルフをやるのです。宗教上の理由でお酒もギャンブルもないこの国ではスポーツは大切な楽しみの一つです。状況を知らない人が聞いたら、アホとしか思わないでしょうね。本当に大変なゴルフで3ホールくらいまわると、暑さと疲労でほとんど会話がなくなり、ハーフで水を2リットルくらいのみます。このような努力？のせいもあって、関係会社の中にも当社のゴルフレベルの高さ是有名です。

私生活はともかく、仕事ではアラブ人となかなか妥協できずにトラブルが生じることがよくあります。トラブルの大きな原因の一つに日本人とアラブ人の文化の違いがあげられます。アラブでは額に汗して働くというのは必ずしも善ではありません。労働とは神から与えられた罰であるから忌むべき事ですが、しかし、生きるためには不可避であるので仕方なしに働くのです。おそらくこの違いは農耕民族と遊牧民族の違いからきているような気がします。農耕における「植物の生産」は、人間の介入によって生産



右端が筆者（現地ににて）



カルーフ(子羊の姿焼き)を囲んでパーティー

性を高めます。特に、日本のように限られた小さな土地での生産性は、人間の努力とある程度比例すると言われています。しかし、遊牧における「動物の生産」は、人間がいかに懸命に働いても、その生産性をあげることは非常に難しいようです。どんなに羊やラクダを手塩にかけて世話をして、妊娠の率がよくなるわけでもありません。こうした風土の中では、我々の美德である勤勉、真面目、謙譲、儉約などは大して重要ではなく、それに代わって、決断、機敏、剛胆、豪気としてなによりも気前のよさといった美德が優先されます。また、よく「アラブ人を理解するにはIBMを理解しなければならぬ」と言います。Iとはイ

ンシャラー(もしアッラーのお望みならば)、Bとはボツクラ(あした)、Mとはマレーシュ(気にしない)の頭文字で、会話の中に必ずと言っていいほど、IBMのどれかが出てきます。一言で言うところコンピュータでも予想できないくらいのおんびりしているということでしょう。

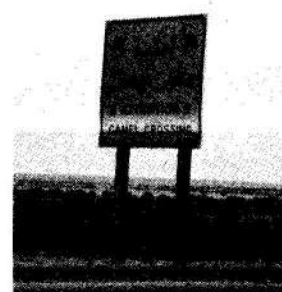
中東といえば、イスラム教について述べなければなりません。異教徒に対しては、言われているよりは遙かに寛容であります。しかし、寛容であると言っても、私のようにイスラム教の最も厳しいサウジアラビアで生活し、仕事をするような場合は、やはり宗教に対して十分に敬意を持つて接し、かりそめにも興味本位になつてはいけません。例えば、どんなに忙しくても、礼拝の時間になると、(そこら中のスピーカーからコールンが聞こえてくる)アラブ人はすべてを中断し、モスク(イスラム教の教会)に行つてしまいます。また、この時間は商店もすべて閉まります。(この時間に商売をしていると刑務所行きとなります。)

日本人にとっては不便極まりないものですが、イスラム教がすべてであるサウジアラビアでは文句も言えません。ま

た、断食はラマダンとよばれる九月に行われます。病人や妊婦等の事情のあるものは除きますが、成人のこの一ヶ月の間、日の出から、日没まで断食を行わなければなりません。断食には喫煙や性交もふくまれます。つまり楽しみを断ち、貧者の体験をするのです。断食を行うのは信心の篤いモスレムにとってもかなりの苦痛であるので、我々日本人はラマダンの間、彼等の面前で昼食をしたり喫煙をすることは絶対にしません。

この他、宗教に関連して、禁酒、豚肉の禁止、四人までの妻帯など我々にとっては奇異に思われる習慣があります。が、いずれも砂漠に生きる生活の知恵と言えます。これらの習慣は十分尊重しなければなりません。例えば、禁酒については、入国の際、うっかりお酒をもち込もうものなら大変なことになります。見つかった時点で即、刑務所ということになります。サウジアラビアに來られる方は十分注意して下さい。

初めてサウジアラビアに赴任した頃は、イラン、イラク戦争の真っ最中で、夜、部屋の窓ガラスが爆撃のたびにビリビリと大きな音で震え、なかなか寝られませんでした。



サウジアラビア独特の道路標識  
“ラクダに注意”

当社の海岸に流れ着いた浮遊地雷の処理を誤り、二名のサウジアラビア兵士が私の目の前で亡くなったという悲しい事件もありました。しかしもっと強烈な印象として残っているのは湾岸戦争です。イラク軍がクウェートに侵攻した際、イラクに連行された日本人の捕虜の中には当社の社員および当社に關係する企業の社員が多く含まれていました。そして、当社の施設もカフジの町もイラク軍によりかなり破壊されました。私は湾岸戦争後すぐに二回目の赴任をしています。この時は、破壊された施設、銃弾の跡、戦車の残骸がそのまま残っており、戦争のすさまじさをまざまざと見せつけられました。今は取りあえず、平静を保っていますが、中東の国々は微妙なパワーポリティクスの上に成り立っており、いつまた紛争が勃発するか予断を許さない状態です。日本人にはこれらの紛争を身近な問題として理解

することは難しく、私自身も中東紛争に興味はあったものの、緊張感はありませんでした。しかし、湾岸戦争は、自分や会社直接影响到影響するといふところでもないことになってしまい、我々社員も会社もその対応に大変な労力を費やしました。その時の一連の出来事は一生忘れることはできないと思います。

ここまで書いた中東の紹介を読んで、大変な所に住んでいるなど思った方も多いかも知れませんが、逆に世界から見れば、日本やアメリカなどはかなり特殊な国と言えます。日本やアメリカのような先進国はわずかで、ほとんどは開発途上の文化も日本とまったく異なる貧しい国であることを理解しなければなりません。サウジアラビアのような、中東のなかでも原油を産出する国はある程度裕福ですが開発途上国であることは間違いないです。最近のアジア各国の金融危機を見てもわかるように、日本の世界に対する影響は強大なものです。既に、好むと好まざるとにかかわらず日本のことだけ考えている訳にはいきません。特に若い人はこれからどんどん海外に出て、外から日本を見直してはいかがでしょうか。

# 「科学と宗教」 最近の事情

## 岸 要

(昭和25年卒)

応化会第六回総会、濱川圭弘先生のご講演「光で拓く二十一世紀」を聴講した。

「母なる太陽の恵み」としての「光」聖書の創世記の冒頭にも「光が生じるように」、すると光があるようになったとあるように、……と始まった。

一昨年十一月開催の第十二回科学技術セミナーで、西島安則先生のご講演「日本の科学技術の現状と今後の展開」では、冒頭の「科学とカトリック教会との関係」についてのお話に大変共感を覚えた。「コペルニクスの時代、元々教会は暦の確立を目的として



科学者をバックアップしていたが、太陽の黒点の存在、地動説に始まる宇宙構造の解明等、聖書教義に反する事実が次々に公表されるに及んで教会は科学者を排除し始め、遂には科学と宗教は離反していった。しかし、科学も真理の探求すなわち大自然の真理を解明することは神を知ると言うことに他ならず、科学はむしろ宗教の延長線上にあるといえる。」

折しも、カトリックの法皇ヨハネ・パウロ二世はここ数年の間に相次いで、十七世紀に地動説を支持して宗教裁判にかけられ教会から破門されたガリレオ・ガリレイに対し、「誠実なる信仰者であると同時に天才的物理学者である」と述べて破門を解いたと報じ、又、ダーウィンの進化論を「既に仮説の域を越えており、カトリックの教えと矛盾しない」とし、「肉体の進化論は認めるが、我々の精神は神から授かったものであり、人間

の精神は進化論と関係ない。」と留保を付けたものの、進化論を認める、と報じた。

私は永年の習慣で、書店に入ると関心を抱いている分野の書棚に立ち、並んでいる書物を概観しているが、九十年代になって、科学と宗教の分野で特徴的な傾向に気付いた。科学書の棚に宇宙論に関する書物が数多く目立ち始めた。「車椅子に乗った『量子宇宙論』の開祖」として一躍有名になったホーキング博士が契機になったのではないかと思う。

幾冊かの書物を読み、ある事に気付いた。何れの著書も、宇宙の始まりから終末の姿まで、その構造が次第に明確になったと言う点では共通しているが、科学者達の間に、「人類は、今まで神の創造物と考えられていた宇宙が物理学の法則によって成り立っている事を説明しつつある。」と神を否定する考えがある一方で、「宇宙万物の秩序正しい現象が説明されるにしたがつて、何か偉大な意思(＝神)が司っていると考えざるを得ない。」と述べる科学者も意外に多いのである。科学もここに至って宗教的・哲学的思考を避けて通れなくなったと言うことであらう。

時期を前後して、宗教書の棚には聖書関係の書として、聖書考古学、死海文書、Q文書等の書物が多種類並んだ。聖書考古学は主に旧約聖書の数々の物語の元となったと思われる古代の歴史的事実の解明や遺跡の発掘により旧約聖書の真実に迫る。死海文書、Q文書は新約聖書がキリスト教の正典として完成するに至る過程の真実を解き明かす有力な文書。

これらの諸文書は、キリスト教会が信仰の絶対的な正典としている聖書の解釈に大変革をもたらすものと考えられている。

先に述べた、カトリックの法王ヨハネ・パウロ二世のガリレオ・ガリレイやダーウィンの容認も、最近の科学の成果に高い関心を持ち始めた社会の風潮に対応したものと言えろのではないだろうか。

これら、科学と宗教の最近の事情は、今や科学と宗教と言う対立的な考えに終止符を打ち、科学と宗教とを整合して新しい叡知を確立し、宇宙の真理に添った人類の未来を切り開いていく必要性を示唆しているのではないかと思う。

おわりに  
紙面の都合で文献紹介を省

きますが若干の文献、著書は筆者が所有しておりますので、ご関心のある方はご連絡下さい。

科学者の哲学的・宗教的思考への関心は、物理(宇宙)学者、生物(生命)学者に比べて化学者は低いという文献もあります。

## ゴルフ懇親会の開催と 趣味・興味分野の 登録について

企画運営委員会

(旧科学技術セミナー委員会)

委員長 東 正弘

(昭和41年卒)

応化会の同窓会活動の柱として、科学技術セミナーを、十余年にわたり開催して参りましたが、本年度から同セミナーにこだわらず幅広く個人の趣味・興味分野を通して会員相互の親睦を深めることができればと考え、六月に開催されました総会場で、ゴルフ懇親会を企画し、参加者を募らせて頂きました。

また、ゴルフ以外に会員の皆様の趣味・興味分野の登録アンケートも実施しました。趣味・興味を共通に持つ会員が集まり、応化会の懇親の輪が広がることを期待しています。

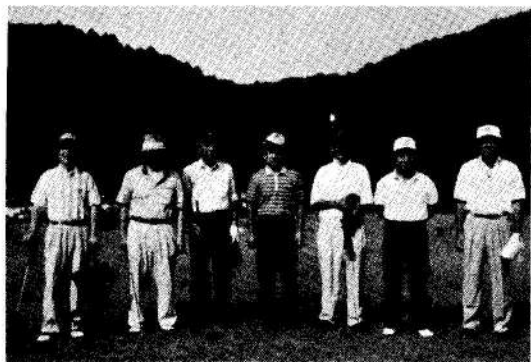


ゴルフ以外にアンケートに記載された分野は、ハイキング、山歩き、釣り、囲碁、写真、園芸、絵画、楽器演奏、旅行等でした。

総会に出席されなかった方で、登録をご希望の方は趣味・興味分野について葉書に住所・氏名・卒業年と共に記載し、応化会事務局宛ご提出下さい。共通の趣味・興味分野で交流することが出来ますので、ぜひ登録をお願いします。

若い会員の方々の参加も期待しています。若い時代は仕事人間になりがちですが、中高年になり「仕事人間からゆとり人間へ」、「会社人間から社会人間へ」といったライフスタイルの变革が大切になって来ます。

「人生八十年時代」長くなっ



た人生をいかに健康で生きがいを持って送るか、これは若い時代からの積み重ねが財産となります。

応化会を大いに活用して下さい。

総会で募りましたゴルフ懇親会を平成十年八月十四日（金）兵庫県・レーク・スワンカントリー倶楽部で開催しました。当日、ゴルフ好き七名が、酷暑の中、二組に分かれて腕を競いました。好プレー・珍プレーがいろいろあり、ダブルペリア方式で和やかに一日を楽しみました。

終了後、表彰式・懇親会を行い、参加者の紹介・プレイの反省・仕事の話等で話はずみ十分な交流が出来ました。スコアは発表しないようにと注文がついていますので、順位のみ記しておきます。

優勝 東 正弘（41年卒）  
2位 伴野 清（42年卒）  
3位 鍋島 充（41年卒）  
4位 松田善文（38年卒）  
5位 木村碩志（27年卒）  
6位 三上正勝（37年卒）  
7位 小林亀造（33年卒）  
次回開催の際は登録して頂いている方全員に案内させて頂きますので、未登録でゴルフ好きの会員の方はぜひ登録して頂き、多数の方々の参加を期待しています。

## 応用化学系 紹介

化学科はこの4月に、二人

の新しい教員を迎えました。物理化学を専門とされる文野浩一先生と、錯体化学が専門の坂上成美先生です。お二人の今後の活躍を期待しております。また、生物工学科では来年の3月で深海浩教授がご定年を迎えられることになります。

昇格人事にしましては、澤村精治先生、森崎久雄先生が教授に昇任されました。

### 「新任の先生から一言」



文野先生

本年度4月より、本学理工学部化学科助手となりました。教員になって1年目ですので、色々不備もあるかと思いますが、皆様の御指導・御鞭撻のほどをお願いいたします。

専門は物理化学で、NMR分光法を用いて電解質水溶液中の分子またはアルカリ金属イオンのスピン-格子緩和時間に関する研究で学位を取得しました。これからは卒業生および大学院生とともにこれまでよりも研究の幅を広げていこうと思っております。今後ともよろしく願います。

### 略歴

1989年 立命館大学理工学部化学科卒業  
1991年 立命館大学大学院理工学研究科博士前期課程応用化学専攻終了  
1994年 立命館大学大学院理工学研究科博士後期課程応用化学専攻単位取得退学  
1995年～1997年 立命館大学理工学研究科研究生  
1998年4月 本学に着任 博士（工学）



坂上先生

こんにちは。筑波大学化学

系より参りました坂上成美です。このたび大瀧先生のご紹介により、一九九八年四月から化学科2号助手として就任いたしました。

研究テーマは、「新規遷移金属錯体のデザインと合成およびそれらに新たに発現する反応性と立体化学」で、筑波時代にはさらに希土類元素との混合金属多核錯体の構築ならびに金属間の電気的磁氣的相互作用の研究も手がけてきました。固体と溶液両面から錯体の物性を検討していく形で、現在は遷移金属として主にクロム（Ⅲ）を、配位子としてはEDTA型を応用したものを扱っています。

### 略歴

横浜生まれの神戸育ち。出身大学および大学院修士課程は奈良女子大学、大学院博士課程は大阪大学です。就職でしばらく関西を離れていましたが、久しぶりになじみの土地に帰ってきて張りきっております。3年という期限付きではありますが、その間少しでもお役に立てるよう努力していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

# 応化会通信

## 総会の報告

本年6月21日(日)午後1時30分よりBKCキャンパスに於て、第6回総会が開催された。田村会長はじめ61名の会員が出席し、会則、内規の変更や、新役員の選出などが行われた。

中村幹事の司会で開会し、まず黙禱を行い、過去3年間に逝去された30余名の会員の方々のご冥福をお祈りした。続いて、田村会長の挨拶の後、議長に東氏を選出し、議事が進められた。

### 総会での議事内容

一、松田幹事より、前回の総会以降の応化会の経過の概要およびその間の化学科・生物工学科二学科からなる応用化学系の諸活動について報告された。

二、小島幹事より平成9年度事業報告、白石幹事より平成9年度決算報告がそれぞれ行われた。会計監査の監査報告の後、上記報告が承認された。

三、松田幹事より会則変更の提案説明がなされ、審議の末、会則が変更された。

(尚、会則変更については本年5月25日の総会案内書を参照されたい)。

### 四、役員の選出方法について

幹事会原案を提案する方法で審議を進めることを承認、竹内役員選考委員長より、幹事会での審議経過、さらに会長、顧問をはじめとする役員の各候補者の選出にあたっての選出基準、選出経過などが説明された後、原案が提案された。質疑の後、別表の新役員が選出された。また、引き続き年度幹事の選出が行われた。

### 五、平成10年度の事業計画と予算案に関する提案説明が

小島、白石幹事から行われ、質疑の後、これら計画案、予算案を承認した。

### 六、松田幹事より応化会会員

の名簿リスト独自発行の計画、および終身会費制を当面新卒者を対象として部分的に実施する趣旨説明がなされた。また、理工学部創立60周年校友大会への参加呼びかけが行われた。

最後に新役員、新幹事が一同に紹介され、代表して田村会長から挨拶が述べられた。

総会終了後、BKCキャンパス内のCキューブに於て懇親会が開催され、二時間に亘って新旧の会員が親睦を深めた。

## 事務局だより

### 事務局を気軽に

#### ご利用下さい

理工学部応化会会員と母校とを結ぶ窓口、応化会事務局は応用化学系事務所にあります。スタッフは月、水、金の週3回勤務の武藤寿美子さん、昨年3月から毎週月曜日の午後、事務管理の支援に向いている岸 要(27年卒)です。それに、家主のお嬢さんとも言うべき立場の、応用化学系事務所の合田典子さんが、不慣れな私たちを助けてくれています。

○応化会会員が気軽に立ち寄って歓談できる場所として、応化系事務所の応接室が利用できます。

○在学当時の事を思い出し、旧友に一度連絡したいと思っただが応化会会員名簿を持っていない。

○全国の大学の中でも有数の規模と内容を誇るキャンパスを一度見学したい。或いは図書館を利用したい。

等の希望を卒業生や学外の人たちからよく聞きます。

こんな時、気軽に応化会事務局(イーストウイング6F)にご相談下さい。お手伝いします。

☎ 077-56112658  
受付 月・水・金 10時~16時

担当 武藤(月曜日午後は岸も居ります。)  
なお、キャンパスの見学や、図書館利用の受付窓口は次の通りです。

### 「申込先」

○キャンパス内の一般見学希望

総合管理センター(コアステーション内)  
☎ 077-56112617

○図書館利用等文献調査  
学習情報サービス(メディアセンター)  
☎ 077-5661111(代)

内線7202 以上

### 平成10年度の年会費の納入への協力をお願いします

平成10年度年会費(平成十一年三月三十一日迄)二千元を納入下さいますようお願い申し上げます。過年度分の会費の納入、未納入に係るなく平成10年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全会員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封しています。平成10年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。

なお、平成七、八、九年度の完納者には、次回の名簿発行の際に無料配布の予定です。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収

証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。(注:平成十年三月卒の一部の会員は、平成10年度分の会費を納入済です。)

## 編集後記

会員の皆様よりのご要望もあり、編集子としても読みやすい紙面にとの方針で、本号より応化会ニュースをB5よりA4にと大きくしました。如何でしょうか。今年は3年に1回の応化会総会が開かれた年であり、会員の中には久しぶりで旧交を暖められた方も多いかと思えます。

応化会会長として引き続き田村弘三郎氏にお願いすることになりました。会員としても会長をもちたてて応化会のさらなる発展を願うものです。

従来の「セミナー等運営委員会」が「企画運営委員会」と名称変更して新しい企画のもとに活動されることとなり、その一環として今回ゴルフコンペを開催されました。会員同志が趣味の分野で一堂に会するのは初めてのことであり、これを機会に種々の集いを期待します。

紙面の都合で今年度の役員名簿、決算書・予算書は別版で同封致します。(香山)